



平成23年度調査研究報告書
小中高等学校における
ユニバーサルデザインの視点を取り入れた
授業実践に関する調査研究(中間報告)

県立総合教育センター

特別支援教育担当

目 次

I	研究主題	1
II	研究主題設定の背景	1
III	研究の目的	2
IV	研究のデザイン	3
V	平成23年度（研究1年次）の取組	4
	1 研究計画	4
	2 「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」の定義	4
	3 「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」の要件・要点の整理	5
	4 「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」の効果の検証に向けて	6
VI	平成23年度（研究1年次）のまとめ	12
VII	平成24年度に向けて	12
	参考資料	13
	引用・参考文献	14
	平成23年度研究協力委員	15

I 研究主題

「小中高等学校におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業実践に関する調査研究」

II 研究主題設定の背景

現在、通常の学級に特別な支援を必要とする児童生徒が多数在籍することが明らかになってきた。文部科学省が小・中学校を対象に平成14年に実施した「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」によれば、知的発達に遅れはないものの学習面や行動面で著しい困難を示すと担任教師が回答した児童生徒の割合は6.3%であった。埼玉県立総合教育センターが平成16年度に文部科学省と同じ調査項目を用いて行った調査では、10.5%を示した。高等学校等への進学率が98%を超える現在（平成23年度学校基本調査）、高等学校においても発達障害等により特別な教育的支援が必要な生徒が多く在籍していることが推測される。平成21年8月の特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議高等学校ワーキング・グループによれば、高等学校に進学する発達障害等困難のあるとされた生徒の高等学校進学者全体に対する割合は約2.2%と報告された。このような状況から、通常の学級における発達障害等の児童生徒への対応は、喫緊の教育課題となっている。

平成18年6月には学校教育法等の改正があり、翌年の平成19年から特別支援教育が本格的にスタートした。これに伴って、発達障害等の特別な教育的ニーズのある児童生徒への有効な指導方法や支援のあり方について研究・開発が急速に進み、数多くの優れた実践が報告されるようになった。

そうした発達障害のある児童生徒を中心とした通常の学級での実践を通して、結果的にそれが他の児童生徒にも有効であるという指摘が多く見られるようになった（例えば、廣瀬他，2009）。特別支援教育の視点を活かした授業づくりは、全ての児童生徒にとって、より「わかる・できる」授業になる、という指摘であり、いわゆる「授業のユニバーサルデザイン」と呼ばれている（廣瀬，2009；東京都日野市公立小中学校全教師・教育委員会 with 小貫，2010；花熊，2011）。

現在、教育研究機関や学校現場等において「授業のユニバーサルデザイン（化）」についての研究や実践が盛んに行われるようになってきている。特別支援教育が培ってきた指導の方法や視点を小・中学校や高等学校の授業に積極的に取り入れることによって授業改善が図れるのではないかと大きな期待が寄せられている。

このように特別支援教育の視点を取り入れた「授業のユニバーサルデザイン」に関する多数の書籍が出版されるようになったが、その有効性について実証的に扱った研究は、ほとんど見あたらない。

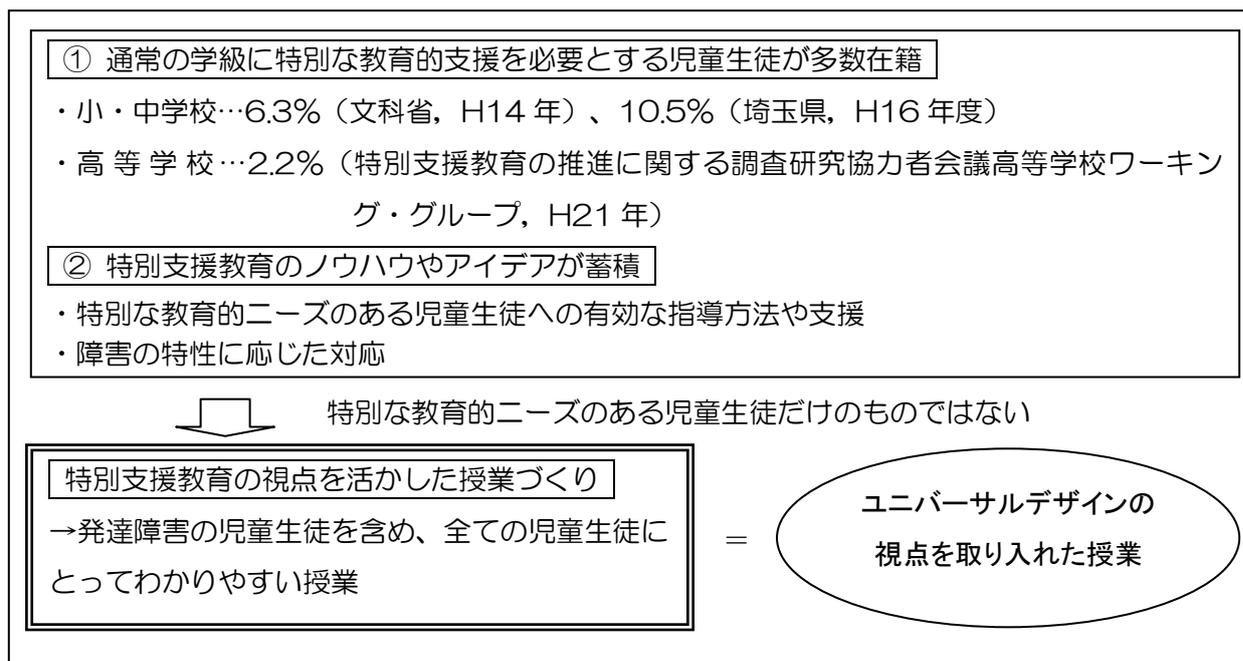


図1 研究主題設定の背景

Ⅲ 研究の目的

本調査研究は、総合教育センターのコンセプト「授業力の向上」を踏まえ、特別支援教育の視点を活かした「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」の有効性を以下の3点から明らかにするものである。

- ① 「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」が多くの児童生徒にとってわかりやすい授業となる。
- ② 「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」により、児童生徒はわかる喜びを実感し、学習意欲の向上につながる。
- ③ 「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」に取り組むことにより教師の授業力が向上する。

これらのことを明らかにした上で、指導に役立つユニバーサルデザインの視点を取り入れた実践事例集を作成する。

このことによって、①ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかりやすい授業」の一層の普及と充実、②教師の授業力向上と授業改善、③通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒の指導・支援の充実、が期待される。

IV 研究のデザイン

本研究の全体像を模式的に表した（図2）。研究は、主に2つの内容を柱に構成する。

一つは、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の要件と要点を整理し、それに基づいて実践事例集を作成することである。

もう一つは、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の効果を検証するために調査を実施することである。

前者は、先行研究のレビューといった文献調査、県内で取り組まれている優れた実践の収集、そして実践事例集の原稿執筆が主な取組となる。後者は、ユニバーサルデザインを取り入れた授業は、わかりやすい授業になっているのか検証授業を通して効果を測定する。測定は、授業者及び児童生徒へのアンケート調査により行う。

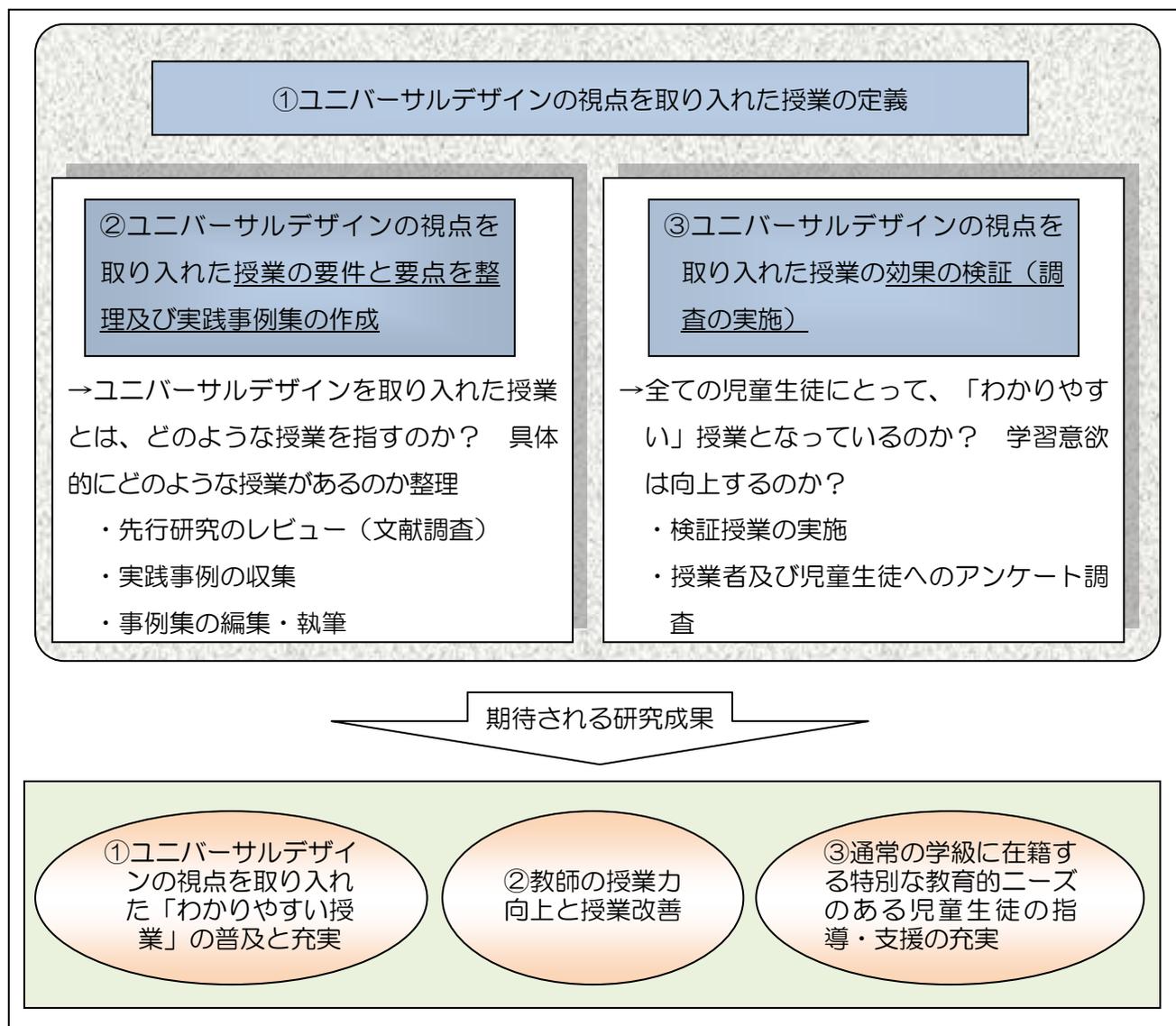


図2 本研究のデザイン

V 平成23年度（研究1年次）の取組

1 研究計画

調査研究協力委員を組織し、年間5回の委員会を開催した。その他に委員による授業視察を1回実施した。各回の主な内容を表1に示す。

表1 平成23年度の取組の概要

回	期日	主な内容
第1回	5/23	研究の概要説明、「UDの視点を取り入れた授業」について提案・協議、学校種毎の情報交換
第2回	7/29	基調講義「授業におけるUD」、「UDの視点を取り入れた授業」の定義と、「UDの視点を取り入れた授業」の要件・要点の整理
第3回	9/7	児童生徒の学習意欲、教師の授業力向上を測定する評価シートを提案・協議
第4回	11/25	児童生徒の学習意欲、教師の授業力向上を測定する評価シート(試案)完成、授業による評価シートの検証について日程等調整
第5回	1/13	1年目のまとめと2年目の取組についての確認
その他 (授業視察)	1/31	授業による児童生徒の学習意欲、教師の授業力向上を測定する評価シート(試案)の有効性の検証と、UDの視点を取り入れた授業の支援の検証

(注) 表の中では「ユニバーサルデザイン」を「UD」と表記する。

2 「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」の定義

(1) ユニバーサルデザインとは

「ユニバーサルデザイン」とは、1985年にアメリカノースカロライナ州立大学のロナルド・メイスが提唱した考え方である。使う人に必要な情報がすぐわかる、使い方が簡単になって使える、少ない力で効率的に使えるなど、あらゆる人にとって使いやすいデザインを意味する。この考え方とバリアフリーの考え方との違いは、バリアフリーは障害を前提にその困難を解消するための考え方であるのに対し、「ユニバーサルデザイン」はあらゆる人にとって使いやすい考え方ということで全ての人を対象にした考えであるといえる。「ユニバーサルデザイン」を見極める視点として、「ユニバーサルの7原則」がある。

ユニバーサルデザインの7原則

- 1 公平な利用
- 2 利用における柔軟性
- 3 単純で直感に訴える利用法
- 4 認知できる情報
- 5 エラーに対する寛大さ
- 6 少ない身体的能力
- 7 接近や利用のためのサイズと空間

出典：ロナルド・メイス他（1997）Version 2.0
NC State University, The Center for Universal Design.

(2) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の定義

特別支援教育の視点とユニバーサルデザインの7原則を踏まえ、本研究におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を次のように定義した。

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業とは、以下の2点を満たす授業である。

- ①特別な教育的ニーズのある児童生徒への指導・支援の中にある要素と、通常の学級で培った「どの子にもわかる授業」とされてきた要素を融合させた授業。
- ②その結果、児童生徒にとって「わかりやすく」、学習意欲が喚起される授業。

定義に際して、2つのことに留意した。

第1に、ユニバーサルデザインの7原則に依拠するが、必ずしも全て満たす必要はないということである。この7原則を可能な範囲で取り入れた授業づくりを目指すことから、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」とした。

第2に、特別支援教育の要素と通常の学級の要素の融合としたことである。障害のある児童生徒の教育の中にある要素を一方向的に通常学級に持ち込もうとするのではない。従来からある通常の学級での「どの子も活かされる学級経営」「どの子にもわかる授業」の要素と特別支援教育で培った要素を融合させるという発想を持つことをユニバーサルデザインの視点として捉えている（東京都日野市公立小中学校全教師・教育委員会 with 小貫，2010）。

3 「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」の要件・要点の整理

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業について、その要件・要点を整理するに当たり、長江・細渕（2005）が構想したユニバーサルの7原則に基づいた授業作りの指針を参考にすることとした。

授業作りの観点で読み替えた「授業のユニバーサルデザインの7原則」（長江・細渕，2005）

- 1 全ての児童が学びに参加できる授業
- 2 多様な学び方に対し柔軟に対応できる授業
- 3 視覚や触覚に訴える教材・教具や環境設定が準備されている授業
- 4 欲しい情報がわかりやすく提供される授業
- 5 間違いや失敗が許容され、試行錯誤をしながら学べる授業
- 6 現実的に発揮することが可能な力で達成感が得られる授業
- 7 必要な学習活動に十分に取り組める課題設定がなされている授業

4 「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」の効果の検証に向けて

(1) 児童生徒の学習意欲、教師の授業力向上を測定する評価シートの作成

授業の「わかりやすさ」を測定する指標として児童生徒の学習意欲に着目した。「多くの児童生徒にとってわかりやすい授業」は、児童生徒たちの学習意欲を向上させ、取り組む教師の授業力を向上させる、という仮定に基づいている。

そこで、①「授業が安心して参加でき、わかりやすいものであったか」を評価する児童生徒を対象にした授業評価アンケート、②「教師の授業力が向上するか」を評価するための教師を対象とした授業評価シートの作成に取り組んだ。

ア 授業評価アンケートの作成

児童生徒の学習意欲の向上を測定することを目的として児童生徒を対象とした授業評価アンケートの質問項目（試案1）を作成した。

児童生徒用授業評価アンケートの質問項目（試案1）

- 1 今日の授業はおもしろかったですか？
- 2 今日の授業はよく分かりましたか？
- 3 先生の話は分かりやすかったですか？
- 4 先生は、あなたや友達の意見をしっかり聞いてくれましたか？
- 5 先生は、あなたや友達が分からないで困っているときにいねいに教えてくれましたか？
- 6 授業中先生の話をしっかり聞いていましたか？
- 7 授業中進んで手を挙げましたか？
- 8 授業中分からないことを先生に聞きましたか？
- 9 授業中ノートをしっかり書きましたか？
- 10 次の授業が楽しみですか？

(注) 回答については、全て「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4件法で選択させる。

次に、この試案1を基に、児童生徒に回答しやすいようにアンケートの工夫を行い、試案2を作成した。

回答しやすさの観点としては、①多くの児童生徒にとって分かりやすい質問の仕方にする（ビジュアル化）、②多くの児童生徒にとって回答（記入）しやすく配慮する、とした。

この「授業評価アンケート（試案2）」（図3）は、質問の文言を短くわかりやすくしてある。回答は数直線上またはドットの線上に印を付けるだけである。色塗りが得意な子は、数直線とドットをつないで中に色を塗ってもよい。教師も数値を正確に読み取らなくても印の位置でおよその傾向を視覚的に判断できるようになっている。

その他にも以下について配慮した。

- ・質問と回答用の数直線等を1問ごとに枠で囲むことによって質問に対しどこに回答するかが、視覚的に見つけやすくした。
- ・数に強いこだわりを持つ子や数字を読むことが得意な子に対し、数直線上に数値を入れることで評価が入れやすくなっている。
- ・文字を読むことより、絵や図で情報を得ることが得意な子に対し、表情のマークやドットの線の傾き（右上がり）で、右の方に印を付けると評価が高くなることをイメージしやすくしている。

図3 授業評価アンケート（試案2）

質問項目の構成概念とユニバーサルデザインの7原則との対応は、以下のとおりである。

- 1 → 自分の役割や取り組むべきことが明確に伝わっていたか・・・【公平な利用】
(授業の中で自分のやるべきことがわかっているならば、安心して授業に参加できる。)
- 2 → 安心して参加できる安全な授業であったか・・・【エラーに対する寛大さ】
(失敗に対する配慮が準備されていけば、安心して授業に参加できる。)
- 3 → 活動の時間が十分確保できていたか・・・【利用における柔軟性】
(達成感、成就感の味わえる授業は児童生徒の学習意欲を向上させる。)
- 4 → 児童生徒にとって理解しやすい授業であったか・・・【認知できる情報】
(何を学んだのか、どんな力を身に付けたのかが明確になる授業は、次時への期待感や意欲を高める。)
- 5 → 児童生徒の学習意欲向上につながる授業であったか・・・【学習意欲との関係】

教科や授業のねらい、学習集団の実態等に合わせて項目毎の文言を作成することで、多くの授業評価に活用できるのではないだろうか。

イ 授業評価シートの作成

この授業評価シートは、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業に取り組むことが結果として授業力の向上につながることを自己評価によって確認するために作成した。評価シートの作成については埼玉県立総合教育センター作成の「授業力」自己診断シート（巻末資料）を参考に1時間毎の授業について以下の4つの視点で評価を求めるものである。

- ・特別支援教育の視点を取り入れた配慮ができた授業であったか
- ・児童生徒が意欲的に取り組んだ授業であったか
- ・児童生徒の多様な教育的ニーズに応えられる授業であったか
- ・教師にとって満足感が得られ、次時への意欲を高める授業であったか

授業評価シート（試案）

1 今日の授業は、満足のいく指導ができましたか？

※「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4件法で回答を求める。

2 それはなぜですか？当てはまるもの全てに○をつけてください。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 児童生徒が話をよく聞いていた。 | <input type="checkbox"/> 児童生徒が話をあまり聞かなかった。 |
| <input type="checkbox"/> 児童生徒が活発に発表した。 | <input type="checkbox"/> 児童生徒があまり発表しなかった。 |
| <input type="checkbox"/> 児童生徒が熱心にノートをとっていた。 | <input type="checkbox"/> 児童生徒があまりノートをとらなかった。 |
| <input type="checkbox"/> 児童生徒が熱心に質問をしてきた。 | <input type="checkbox"/> 児童生徒の質問があまりなかった。 |
| <input type="checkbox"/> 児童生徒が授業内容をよく理解できた。 | <input type="checkbox"/> 児童生徒が授業内容を理解できなかった。 |
| <input type="checkbox"/> 授業の準備が十分できた。 | <input type="checkbox"/> 授業の準備が十分できなかった。 |
| <input type="checkbox"/> 授業が予定通り進んだ。 | <input type="checkbox"/> 授業が予定通り進まなかった。 |
| <input type="checkbox"/> その他 [|] |

3 今日の授業でどんなところを工夫しましたか？

※自由記述で回答を求める

4 以下の観点についてご自身で評価してください。

- (1) 授業中明るく児童生徒に接していましたか？
- (2) 学習のルールが徹底されていませんか？
- (3) 児童生徒にわかりやすい指示が出せましたか？
- (4) 児童生徒一人一人の変化に気を配ることができましたか？
- (5) 児童生徒に本時のねらいやめあてを明確に伝えましたか？
- (6) 児童生徒に本時の学習の流れについて見通しを持たせていませんか？
- (7) 児童生徒の反応を予測して適切に対応できましたか？
- (8) 発問は短く、わかりやすい言葉で的確に伝えることができましたか？
- (9) 板書は見やすく、わかりやすいまとめ方ができましたか？
- (10) 次の授業が楽しみですか？

※「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4件法で回答を求める。

(2) 授業視察

調査研究協力委員による「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」を平成24年1月31日に設定し、授業の視察を実施した。その際に作成した授業評価アンケート及び授業評価シートの回答を求め、アンケート等の回答のしやすさなどについて検証を行った。

ア 授業視察について

今年度の授業視察は1回、小学校5年生理科の授業で実施した。授業者からは事前に当日の指導案の提供とともに「授業のねらい（教科指導の観点で）」「ユニバーサルの7原則に基づく支援」などについて説明を受け、授業の内容や流れを確認した。

イ 授業について

(ア) 教科及び単元名 理科「もののとけ方」

(イ) 単元のねらい

もののとけ方をそれらにかかわる条件に目を向けながら調べ、見出した問題を計画的に追求する活動を通して、物の変化の規則性についての見方や考え方を養う。

(ウ) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫点（表2）

- ・より簡便で安全、安価な実験器具の開発
- ・準備・片付けが簡単な実験セットの工夫（教師にとってもユニバーサルデザイン）
- ・学習の見通しがもてる課題設定
- ・実験の中での一人一役の活動分担、明確な活動内容
- ・授業の構造化
- ・自分の考えを分かりやすく伝えるための発表の仕方の構造化

- ① 実験の方法 → 「（対象）を（器具）で（操作）する。」
- ② 予想する → 「（対象）を（器具）で（操作）すると（結果）になると思う。
なぜなら（既存の知識・体験）だからだ。」
- ③ ま と め → 「（対象）を（器具）で（操作）すると（結果）になった。」
- ④ 考 察 → 「（対象）を（器具）で（操作）すると（結果）になったので、
（結論）だと分かった。」

ウ 児童の反応

全員が授業に集中して取り組んでいた。自分のやるべきことがわかっており、活動は二人組でできるように配慮されているので、相手と話し合う活動も随所に見られた。

また、実験が終了したグループから、教師の指示が無くてもそれぞれ器具の片付けを始めたり、グループ内で互いの記録を確認しあったりするなど、学習のルールが明確になっていることで児童が主体的に動いていると感じた。

授業が始まる前に児童のノートを観察したところ、どの子もポイントを押しえられており、日々のノート指導の実践がしっかり積み重ねられていることが見てとれた。

表2 視察授業におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた支援

工夫点	実物	効果
<p>より簡便で安全、 安価な実験器具 (すり切り一杯を 正確に量るための 薬品入れ)</p>		<p>上蓋を開くと立ったまま倒れず、 すくった薬品を内側の縁でこすり ながらとると、すり切り一杯の量 がとれ、こぼれた薬品はケースの 中に戻る。</p>
<p>より簡便で安全、 安価な実験器具 (割れにくく、こ ぼれにくいプラス チック容器)</p>		<p>プラスチックなので割れにくい。 上蓋があるのでこぼれにくく、そ のまま置いて様子を観察したり、 次の時間に利用したりするとき も、こぼれたり、違うものが混 ざったり心配が少ない。</p>
<p>学習の見通しがも てる課題設定と授 業の構造化 (掲示物)</p>		<p>これまでの学習の流れ(黒板に掲 示)や1時間の学習活動(黒板の 上に掲示)を教室背面に掲示する ことで、学習の見通しが持ちやす くなる</p>
<p>学習の見通しがも てる課題設定と授 業の構造化 (掲示物)</p>		<p>注意することを数値化したり、絵 や図で残したりすることで指示が 通りやすくなる。</p>
<p>実験の中で一人一 役の活動分担と、 明確な活動内容</p>		<p>シートは、クリアファイルに1枚 ずつ入れられており、濡らした り、汚したりしにくい。結果の記 録は、シールを貼るだけなので、 誰もが簡単にできる。</p>
<p>学習の見通しがも てる課題設定と授 業の構造化 (配付資料)</p>		<p>板書の図や左の写真の実験器具と シートのように、食塩とミョウバ ンに関するものは、単元を通して 同じ色で統一されており、視覚的 に判別しやすくなっている。</p>

(3) 授業評価アンケート及び授業評価シートの検証

ア 授業評価アンケート

授業終了後、授業を受けた35名の児童に授業評価アンケートの記入を求めた。全ての児童が5分以内で記入できたことから、短時間で評価できるシートになっていることが確認できた。

記入の仕方については以下のような結果であった。

・ 数直線上に印をつけたこども	10名
・ 斜め線（ドット）の上に印をつけたこども	15名
・ 顔の絵に印をつけたこども	7名
・ 「はい」と「いいえ」の言葉に印をつけたこども	2名

無回答や誤記入がなく、かつ回答に著しい偏りがなかった。結果から、児童が付けやすい方法を選んだことが推察され、多くの児童にとって記入しやすい評価シートになっていると思われた。

ただし、ドット線に印をつけた児童は、数値にこだわらず数字の間に印をつけたり、「はい」「いいえ」のどちらかで全ての項目を評価したりと、回答の仕方が多様であるため、評定のつけ方に曖昧さが見られた。これについては、改善の余地があると思われた。

以上、評価項目の言葉や記入のさせ方等について今後更なる検討が必要だが、概ねこのシートを基本に児童生徒の授業評価を検証できる見通しがもてた。

イ 授業評価シート

次に教師を対象とした「授業評価シート」であるが、後日回答してもらった。授業についての教師の評価も概ね良好で、その判断の基準になったのが、授業中の児童の反応であったとアンケート用紙から推察された。

今年度は小学校の一事例だけであったが、授業評価シートの回答のしやすさや内容の妥当性については概ね満足のいくものであった。

VI 平成23年度（研究1年次）の取組のまとめ

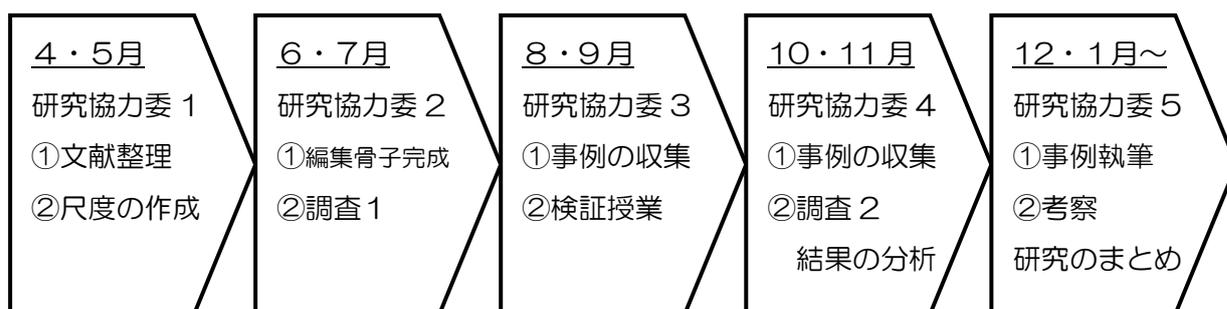
研究1年次の取組は、研究のデザインを明確にした上で、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の定義と2年次に予定している調査に向けて内容や方法の検証を主に取り組んだ。

前者については、先行研究のレビューを実施し、「授業のユニバーサルデザインの7原則（長江・細渕，2005）」に基づいて実践事例を整理することとなった。

後者については、授業評価アンケートと授業評価シートを作成し、予備調査を実施し、実際に回答を求め、内容について検証を行った。回答の曖昧さを修正する必要などの改善点を見出すことができた。

VII 平成24年度（研究2年次）に向けて

1 タイムスケジュール



2 研究主題の見直し

当初、この調査研究事業は小中高等学校の授業を対象に進める予定であった。しかし、「多くの児童生徒が安心して参加でき、分かりやすい授業」を研究するのであれば、特別支援学校の授業も対象に考えるのが自然である。そこで、この調査研究事業は次年度より研究の対象を特別支援学校の授業まで広げ、研究名を「小中高等学校及び特別支援学校におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業実践に関する調査研究」として継続していくことを確認した。

参考資料「総合教育センター『授業力』自己診断シート(2011)」

分類	番号	診断項目	評価	具体項目例(重複箇所あり)
授業力を支える学習集団を形成する力	1	明るく快活に児童生徒に接している。		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒に、笑顔で快活にあいさつをしたり話しかけたりしている。 児童生徒の意見や提案を受け入れている。
	2	学習にふさわしい環境づくりを心がけている。		<ul style="list-style-type: none"> 学習活動に適した身なりを徹底させている。 適切な言語環境づくりをしている。 環境美化に配慮し、黒板をきれいにするなど学習環境を整えている。 掲示物を工夫するなど学習環境を整えている。 安全に配慮した環境づくりをしている。
	3	基本的な学習ルールを定着させている。		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の着席状況を確認してから授業を始めている。 開始時刻と終了時刻を守って授業を行っている。 学習の準備を整えさせてから授業を始めている。 正しい姿勢、発言の仕方や話の聞き方などを、適宜指導している。
	4	明確な指示を出して集団を動かしている。		<ul style="list-style-type: none"> 全員の聞く姿勢を整え、静かになってから指示を出している。 指示が徹底したかを確認して次の行動に移らせている。 明瞭・簡潔に児童生徒の目を見て具体的な指示を出している。 学習集団における児童生徒の人間関係を把握している。
児童生徒を理解する力	1	児童生徒一人一人の学習意欲やこれまでの学習状況を把握している。		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の興味・関心を高める教材や学習方法を工夫している。 児童生徒と積極的にコミュニケーションをとっている。 配慮を要する児童生徒を理解し、個に応じたきめ細かな指導をしている。 児童生徒の提出物や作品などに適切なコメントを書き入れている。
	2	児童生徒一人一人の変化を把握し、授業に生かしている。		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の質問や意見を適切に取り上げ、明確に回答したり、授業展開の中に生かしている。 児童生徒一人一人に偏りなく気を配ったり、個別に声かけをしたりしている。 児童生徒の反応や変容に気付き、積極的に授業に生かしている。 児童生徒の多様な反応を予測して、その手立てを準備している。 ポートフォリオの作成など、児童生徒が自らの学習状況や学びの伸びを評価し、新たな学びに生かせるよう工夫している。
教材を解釈し授業を構想する力	1	深い教材研究をしている。		<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の趣旨や単元のねらいを達成するよう教材研究をしている。 教科等に関する専門書や研修等で得た知識を生かし、教材研究をしている。 学年会や教科部会などで教科指導に関する情報交換等を行い、授業に生かしている。
	2	学習のねらいを明確に持ち、学習に見通しをもたせている。		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の思考過程に即して学習活動を工夫している。 本時のねらいを児童生徒に明確に示している。 児童生徒が本時のねらいを理解している。
	3	時数、指導内容、指導方法、学習形態について、適切に指導計画を立てている。		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態を考慮して適切な時間配分を行っている。 単元のねらいを達成するために適切な指導内容の配置を行っている。 反復学習や補充指導、発展的な学習を意図的・計画的に取り入れている。 指導内容に合った効果的な学習形態を計画している。 指導計画が適切であったかを適宜振り返り、必要に応じて修正している。 児童生徒の活動場面を確保し、主体的に学習に参加することを通して達成感を感じるよう配慮している。
	4	適切な評価計画を立てている。		<ul style="list-style-type: none"> 指導計画に基づき、適時適切な場面で評価するよう具体的な評価計画を立てている。 複数の評価方法で多面的に児童生徒を評価するように計画を立てている。 本時の評価の観点を明確にして授業に臨んでいる。 ノート、発言、机間指導などから、児童生徒一人一人のよさや優れたところ、伸びを積極的に評価している。
授業を実践する力	1	学習状況に応じて適時・的確な対応を行っている。		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の多様な反応を予測して、その手立てを準備している。 教えるべきことと考えさせるべきことを明確にして授業に臨んでいる。 導入課題を必要感のある課題にするなど学習の動機付けを工夫している。 児童生徒の理解や反応に応じて柔軟な対応を行っている。 自力解決の場面やつづきなどから、つまづきを早期に発見し適切な指導を行っている。 進んでいる児童生徒への手立てを適切に行っている。 児童生徒の活動場面を確保し、主体的に学習に参加することを通して達成感を感じるよう配慮している。
	2	的確な発問をしている。		<ul style="list-style-type: none"> 問うべきを問うなど、ねらいの達成につながる発問を計画している。 多様な考えを引き出す発問をしている。 児童生徒の思考を深める発問をしている。 発問に対して児童生徒が思考する時間を十分確保している。
	3	効果的な板書をしている。		<ul style="list-style-type: none"> 板書計画を立て、授業の流れを踏まえて、内容を分かりやすく板書している。 漢字の筆順や文字の大きさに気をつけて、ていねいな文字で板書している。 色チョークを適切に活用するなど、大切な事項等が分かるように板書(提示)をしている。
	4	授業のまとめを工夫している。		<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容の要点を明確に示している。 学習の振り返りをさせている。 次時の学習内容を確認し、興味関心をもてるよう動機付けしている。

<引用・参考文献>

- 花熊暁（2011）〈小学校〉ユニバーサルデザインの授業づくり・学級づくり：通常の学級で行う特別支援教育．明治図書．
- 廣瀬由美子他（2009）通常の学級担任がつくる授業のユニバーサルデザイン：国語・算数授業に特別支援教育の視点を取り入れた「わかる授業づくり」．東洋館出版社．
- 河村久（2010）学級づくりのユニバーサルデザイン小 1 担任の全仕事：発達障害のある子の場面別エピソードでよくわかる!．明治図書．
- 文部科学省（2002）通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査．
- 文部科学省（2002）通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査．
- 文部科学省（2008）小学校学習指導要領：総則編．東洋館出版社．
- 文部科学省（2012）平成23年度学校基本調査（確定値）．
- 長江清和・細渕富夫（2005）小学校における授業のユニバーサルデザインの構想：知的障害児の発達を促すインクルーシブ教育の実現に向けて．埼玉大学紀要教育学部（教育科学），54(1)，155-165．
- 長江清和・細渕富夫（2006）ユニバーサルデザインの発想を活かした授業づくり（1）知的障害学級と通常学級（小学校5年生）との図画工作科の合同授業．埼玉大学教育学部実践総合センター紀要，5，169-184．
- 長江清和・細渕富夫（2007）ユニバーサルデザインの発想を活かした授業づくり（2）知的障害学級と通常学級（小学校2年生）との国語科の合同授業．埼玉大学教育学部実践総合センター紀要，6，209-223．
- ロナルド・メイス他（1997）Version 2.0 NC State University, The Center for Universal Design.
- 仙台市立黒松小学校（2002）平成14年度校内研究のまとめ．
- 埼玉県立総合教育センター特別支援教育担当（2005）一人一人の教育的ニーズに応じた支援の在り方に関する調査研究．研究報告書第295号．
- 埼玉県立総合教育センター（2011）「授業力」自己診断シート．埼玉県立総合教育センターHP（<http://www.center.spec.ed.jp/>）．
- 東京都日野市公立小中学校全教師・教育委員会 with 小貫悟（2010）通常学級での特別支援教育のスタンダード：自己チェックとユニバーサルデザイン環境の作り方．東京書籍．
- 特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議高等学校ワーキング・グループ（2009）高等学校における特別支援教育の推進について：高等学校ワーキング・グループ報告．

＜平成23年度研究協力委員＞

	所 属	職 名	氏 名
スーパ バイザー	埼玉大学教育学部	准教授	名越 斉子
委 員 長	東松山市立桜山小学校	校 長	鈴木 克俊
副 委 員 長	飯能市立飯能第一中学校	教 頭	斉藤 国明
委 員	蓮田市立黒浜西小学校	教 諭	磯部 聡子
〃	八潮市立大曾根小学校	教 諭	砂辺美千子
〃	三芳町立三芳中学校	教 諭	本田 浩基
〃	草加南高等学校	養護教諭	道上恵美子
〃	上尾かしの木特別支援学校	主幹教諭	折原 裕朋
〃	本庄特別支援学校	教 諭	久保田悦子
〃	県立学校部特別支援教育課	指導主事	長江 清和
事 務 局	総合教育センター	教育主幹兼主任指導主事	松村 敦夫
〃	〃	指導主事兼所員	磯野 和人
〃	〃	〃	時山久美子
〃	〃	〃	西 聡